

ばんきんニュース

日本分析化学会近畿支部ニュース 第5号

2007年1月23日

～第2回近畿分析技術研究奨励賞 授賞式が行なわれました～

年明けの2007年1月11日(木)、大阪科学技術センターにて、授賞式と受賞講演が行われました。

2006年度の近畿分析技術研究奨励賞の受賞者は、田辺製薬(株)CMC研究所分析研究部の町田佳男氏、受賞研究題目は「キラルなクラウンエーテルをセレクトーとしたキラル固定相の開発研究」です。p.3もあわせてご覧下さい。



目次

- 近畿分析技術研究奨励賞 p.1
- 行事予定： p.2
 - 提案公募型セミナー、近畿分析技術研究懇話会第10回講演会、支部講演会
- 報告： p.3
 - 近畿分析技術研究奨励賞(続)、分析化学会第55年会のご報告と御礼、第2回基礎分析化学実習、第3回基礎分析化学実習、提案公募型セミナー、第2回支部講演会
- お知らせ p.10

行事予定

① 日本分析化学会近畿支部提案公募型セミナー

分析化学とマイクロ波化学 No. 3 — 私達が未来の化学・技術を拓く —

主催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

共催：京都府地域結集型共同研究事業、ミネルバライトラボ、アーカイラス

後援：けいはんな新産業創出・交流センター、KIT コミュニティ形成事業

日時：平成 19 年 2 月 19 日(月) 午前 10 時～午後 5 時 30 分

場所：関西文化学術研究都市 けいはんなプラザ交流棟 3 階「ナイル」

アクセス：<http://www.keihanna-plaza.co.jp/10accessmap/access/index.html>

プログラム：

あいさつ (10:00～10:05) 日本分析化学会近畿支部長 大阪市立大学 市村 彰男

講演 (10:05～12:30)

1. 金ナノ粒子を用いた次世代ラベルフリーバイオチップの開発
大阪府立大学 産学官連携機構 先端科学イノベーションセンター 椎木 弘
2. 放射光 3 次元ナノプロトタイピングによるマイクロ流路の作製と微量環境分析システムへの展開
兵庫県立大学 高度産業科学技術研究所 内海 裕一
-----休憩 5 分-----
3. 分析用流体デバイスの開発
(株) 島津製作所 民生品部 藤山 陽一
4. 半導体 HPA マイクロ波精密化学反応装置の開発
ミネルバライトラボ 松村 竹子
-----昼食 60 分-----

講演 (13:30～16:00)

5. 近赤外 SERS を目的とする金ナノ粒子のマイクロ波精密合成と異方性自己集合
けいはんな京都府地域結集型共同研究事業 福岡 隆夫
6. マイクロ波で作るフィルム状太陽電池
東京大学先端科学技術研究センター特任助教授 内田 聡
-----休憩 10 分-----
7. 有機 EL 素子材料のマイクロ波合成
産業技術総合研究所 環境化学技術研究部門 今野 英雄
8. 高分子のマイクロ波化学
産業技術総合研究所 環境化学技術研究部門 長畑 律子

まとめ (16:00～16:05) 次期近畿支部長 紀本電子工業(株) 紀本 岳志

ラボ棟企業展示と説明 (16:05～16:30)

研究交流会 (16:30～17:30) ポスター展示 は 10 時から可能です。

参加費：(資料代を含む) 1,000 円 (学生 無料)

研究交流会費：4,000 円 (学生 半額)

【参加申し込み方法】

標記セミナー名を題記し、1) 氏名、2) 勤務先(所属)、3) 連絡先(TEL・FAX・E-mail)、4) 交流会参加の有無を明記のうえ、下記宛お申し込み下さい。参加証は発行しませんので、直接会場にお越し下さい。

【参加申し込み・問合せ先】

(有) ミネルバライトラボ 松村 竹子

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台 1-7、Tel&Fax : 0774-95-0189 e-mail: mll@gamma.ocn.ne.jp

URL: <http://www.mll.jp/>

近畿支部の皆様のご協力とご参加をお願いいたします。

② 近畿分析技術研究懇話会第10回講演会

共催：日本分析化学会近畿支部，近畿分析技術研究懇話会

期日：平成19年3月9日（金）15時～17時

会場：大阪科学技術センター4F 405 号室

（〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4、電話：06-6443-5324）

交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車，北へ徒歩約7分。うつぼ公園北詰

講演

1. わが国における違法（脱法）ドラッグ分析の現状

（大阪府警 科学捜査研究所 化学研究室 主任研究員）片木 宗弘氏

2. スポーツにおける対薬物乱用国際戦略とドーピング検査の現状

（㈱三菱化学ビーシーエル アンチ・ドーピングセンター ディレクター）植木 眞琴氏

参加費：聴講無料、懇親会：1000 円（当日会場にて申し受けます）

参加申込方法：「近畿分析技術研究懇話会第10回講演会」と題記し，1) 氏名，2) 勤務先，

3) 連絡先，4) ミキサー参加・不参加の区別，Fax もしくは電子メールにて

下記宛お申込み下さい。参加証は発行致しませんので，直接会場にお越し下さい。

申込先：社団法人日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター6 階

〔電話：06-6443-5531，FAX：06-6443-6685，E-mail：mail@bunkin.org〕

③ 第1回 支部講演会

日時：平成19年4月6日（金） 詳細は、追ってご連絡いたします。

報告：第2回近畿分析技術研究奨励賞（1/11）in 科技セ

2006年度の近畿分析技術研究奨励賞の受賞者は、田辺製薬（株）CMC 研究所分析研究部の町田佳男氏に決まりました。受賞研究題目は「キラルなクラウンエーテルをセクターとしたキラル固定相の開発研究」です。昨年度に発足した本賞は、今年度から対象年齢を5歳あげ40歳としました。推薦応募された2件について、昨年度に引き続き大阪府立大学名誉教授中原武利参与の選考委員長のもと、委員長を含む7名の選考委員からなる選考委員会で厳正な選考を行っていただきました。その結果、上記町田佳男氏1件の受賞となりました。

1月11日（木）、大阪科学技術センター701号室にて、授賞式と受賞講演が行われました。会場には近畿支部役員をはじめとして、多数の支部会員が参加されました。表彰式では、まず近畿支部長から受



賞者の町田氏へ賞状と記念の盾が授与されました。盾は第1回と同様、大阪造幣局製の銅製の重厚なメダルをあつらえたものです。つづいて、選考委員長の中原武利先生より講評を頂きました。その後支部長の祝辞で授賞式は終了しました。受賞者の町田氏も少々厳肅な雰囲気緊張気味な様子でした。

表彰式に引きつづいて受賞講演が行われましたが、表彰式が早く終わったため講演者の町田氏の了解を得て、講演

時間を50分と延長させていただきました。受賞講演題目は受賞研究題目と同じものです。講演では、田辺試薬で町田氏の今まで行ってこられた活発な研究の内容を楽しく聞かせていただきました。主な内容は、新規キラリ固定相の開発、医薬品アセチル-L-カルニチンの光学異性体分離法の開発および品質管理への応用などの研究をはじめとして、医薬品メーカーとしてのガイドラインに対する解釈および情報発信なども織り込んだものでした。町田氏のクラウンエーテル部位をもつキラリセクターや固定相の合成については、とくに楽しそうに話されたのが印象的でした。受賞講演では質疑応答を行わないというのが慣例ですが、近畿支部の本受賞講演では多くの方から質問等があり、活発な討論が講演に花を添えた形となりました。

講演に引きつづき、懇親会が中原先生の乾杯の発声ではじまり、受賞者を囲んでの談笑などで、にぎやかなひと時となりました。次期支部長の紀本岳志氏のお開きの挨拶まで、楽しい時を過ごすことができました。町田佳男さん本当におめでとうございました。

会員の皆様には、2007年度第3回の奨励賞へ多数のご推薦をお願いする次第です。(支部長 市村)



報告：分析化学会第55年会のご報告と御礼

日本分析化学会第55年会は、2006年9月20日から3日間、大阪大学豊中キャンパスと国立民族学博物館大講堂を会場として開催されました。年会期間中は3日間共にさわやかな晴天に恵まれ、講演総数876件、参加登録者数1515名と前回の名古屋での年会を上回る盛大な年会となりました。本年会は、近畿支部の約80名の実行委員の方々の献身的なご協力のおかげで、大きなトラブルもなく、無事終了することができました。お手伝いいただいた約60名のアルバイト学生の皆さんは、すべて近畿支部の分析化学関連研究室の学生であったため、会場の設営から学会の運営、後片付けまで非常にスムーズに作業を進めることができました。また、近畿支部の事務局の方々には、実行委員会の運営から学会当日の会計作業、学会後の事務処理までご協力をいただきました。年会の運営にご尽力いただいたすべての皆様にこの場を借りて、厚く御礼申し上げます。

年会報告は、すでに昨年の「ぶんせき」12月号に掲載(年会HP

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/lab/watarai/nenkai55/index.html> からもご覧いただけます)しましたので、以下に簡単な年会のまとめを報告させていただきます。また、記録担当の茶山健二先生、吉

田裕美先生に年会での写真の一部を以下のサイトに紹介していただいていますので、ご覧いただければ幸いです。

分析化学会写真

http://picasaweb.google.com/yumi29yoshida/55?authkey=k_vha17fjZIzzpmVmz77R_sX5y8

年会舞台裏

<http://picasaweb.google.com/yumi29yoshida/Unnamed?authkey=QchxZsQgM6A-7Tj4t8TzgwoiTIs>

講演：

講演分類については例年の 29 分類に加え、界面・微粒子分析化学を新たに設け、30 の分類で講演募集を行いました。プログラム編成については直前まで講演時間の変更やキャンセルなど責任者の大塚浩二先生をはじめとする諸先生方に大変ご苦勞をおかけしました。

466 件の口頭発表は 10 会場を利用し、主にパワーポイントによる発表が行われました。また 296 件のポスター発表は、付設展示会と同じ会場にて、44 件の **Problem-Solving** 学生ポスター発表は、ミキサー会場にて行いました。この他、17 件のテクノレビュー講演、17 件の研究懇談会講演が行われました。また、新名誉会員のご講演など 4 件の外国人特別講演を行いました。

シンポジウム、若手企画：

本年会では、以下に示す企画シンポジウム、ポスター発表などを行いました。企画責任者の先生方には、ご苦勞をおかけしましたが、どの企画も盛会となりました。

- 1) 「分離分析の最先端研究」企画責任者：大塚浩二先生
- 2) 「分光分析法の新展開」企画責任者：尾崎幸洋先生、尾関 徹先生
- 3) 「イオン液体一分離・分析の新素材」企画責任者：垣内 隆先生
- 4) 一般公開シンポジウム「ナノ材料と生体安全性－いかにわかるか－」企画責任者：河合 潤先生
- 5) 若手シンポジウム「先端計測開発による分析の新潮流」 企画責任者：久本秀明先生
- 6) **Problem-Solving** 学生ポスター講演 企画責任者：久本秀明先生

この企画では、学生研究者を対象とし、研究の問題意識 (**Problem**)・解決策 (**Solving**) を意識した発表を募集しました。近畿支部の若手研究者を中心に評価し、11 件の発表を **Problem-Solving** 学生ポスター賞として実行委員長名で表彰しました。

実行委員会企画賞：

本年会では、「イノベーション賞」、「学生奨励賞」の 2 つの賞を授与しました。イノベーション賞は、すべての一般口頭発表を対象とし、新しい分析手法、分析概念、機器開発など分析化学への発展につながる発明や発見に関する発表に、また、学生奨励賞は分析化学を担う学生会員の優れた口頭発表に対し授与することとし、エントリー制としました。市村彰男近畿支部長を委員長とする表彰小委員会を設け、10 名の選考委員、各会場の座長、および会場責任者の評価を基に受賞者を選定しました。受賞者については、「ぶんせき」12 月号をご覧ください。

付設展示会：

付設展示会として機器展示とカタログ展示を行いました。展示会に特色を出すため、バイオ分析関連展示、マイクロ・ナノ分析関連展示、一般展示、カタログ展示の 4 つのテーマで募集依頼を行いました。

企画責任者の澁谷康彦先生をはじめ関係者各位の努力により、予想を上回る 35 社、38 ブースの出展がありました。展示会場はポスター会場と共通で使用したため、多くの方に足を運んでいただき、出展していただいた方々にも好評であったと思います。

名誉会員推戴式、学会賞等授賞式、学会賞講演：

名誉会員推戴式、学会賞等授賞式、学会賞講演は、万博記念公園内の国立民族学博物館の大講堂で行われました。年会登録証の提示により万博公園を通り抜けでき、さらに、国立民族学博物館が無料で観覧できるようにしました。なお、当日は、新旧名誉会員および近畿支部参与を中心にした昼食会が年会会場において催されました。

今回は 14 名の新名誉会員の推戴式が執り行われましたが、近畿支部からは、小川禎一郎先生（九州大学名誉教授）庄野利之先生（大阪大学名誉教授）、寺部 茂先生（兵庫県立大学名誉教授）が名誉会員となりました。改めてお祝い申し上げます。

学会賞等授賞式では、学会賞、奨励賞、学会功労賞、技術功労賞、および有功賞の受賞者に会長から賞状と副賞が贈呈され、その後、学会賞授賞講演が行なわれました。会場は 450 名を収容する講堂でしたが、晴天に恵まれたため、大変多くの方に参加いただくことができました。

ミキサー、懇親会：

ミキサー（責任者；佐々木隆之先生）は、豊中キャンパス内のカフェテラス「らふおれ」で開催されました。ミキサーに先立って同会場にて学生ポスターの発表が行われたこともあり、200 名を超える参加者があり、盛会となりました。会場には、大阪名物のたこ焼きの体験コーナーも設けられました。

懇親会（責任者；紀本岳志次期支部長）は、千里阪急ホテル仙寿の間にて開催されました。横井邦彦先生の司会で、実行委員長の挨拶から始まり、小泉英明会長、大阪大学の宮原秀夫総長からご挨拶をいただきました。その後、会長、名誉会員、新名誉会員、ならびに外国人講演者の方々による鏡割りを行い、藤永元会長の御発声で乾杯、宴となりました。懇親会には、招待者を含めて 400 名以上の方に参加していただき、大変な盛会となりました。懇親会の出し物としては、紀本岳志次期支部長のご発案で大阪天満宮の天神祭ギャル神輿をお願いし、大阪締めで余興を終了しました。最後に市村彰男近畿支部長が懇親会のお開きを宣し、会を終了としました。またご希望の方には、二次会にて更に懇親を深めていただきました。

会場関係など：

会場関係では、初めての試みとしてインターネット休憩室を設置しましたが、大変好評でした。また、3 箇所の試写室を設置し、休憩室には飲み物と軽いスナックを用意しました。さらに、女性の方々のために、トイレ内にパウダーコーナーを設けました。この他、学内の案内板については、講演会場が 3 つの建物に分散したため、業者に依頼したもの以外にできるだけ多くの案内板を自作、設置しました。

おわりに：

本年会では、山本雅博先生をはじめとする会計担当の先生方、および実行委員の先生方のおかげで、前回は上回る黒字会計としていただきました。剰余金の大半は、近畿支部の支部活動の活性化に使用することで本部理事会にもお認めいただきましたので、有効にご利用いただければ幸いです。

本年会が成功理のうちに終了いたしましたのは、上に挙げさせていただいた先生方だけでなく、渡辺 巖

先生をはじめとする総務担当の先生方、会場係、クロークや休憩室、試写室のお世話といった学会運営には必要不可欠なお仕事を担当していただいた先生方、また、堀智孝先生、木原壮林先生をはじめとする名誉会員等のお世話を担当していただいた先生方など、すべての実行委員の先生方のおかげだと考えております。また、アルバイト学生の皆さんには私たちの予想をしのご働きを見せていただきました。最後にもう一度、年会の運営にご尽力いただいた皆様に衷心よりお礼を申し上げ、ご報告といたします。

分析化学会第 55 年会 実行委員長 渡會 仁
会場担当 文珠四郎秀昭

報 告 : 第2回基礎分析化学実習 (9/27) in 紀本電子

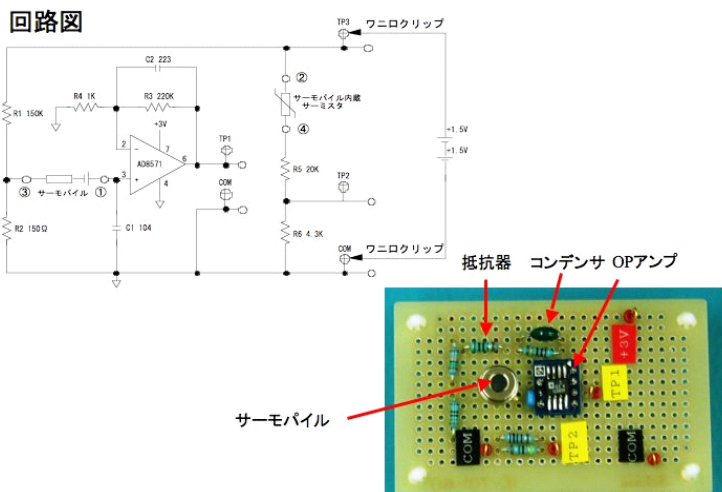
去る 2006 年 9 月 27 日 (水) 近畿支部行事として、表題の基礎分析化学実習「電子回路の基礎」が開催されました。この実習は、今年で 4 回目となりますもので、主に大学生の皆さんを対象に、あらゆる分析機器に用いられているオペアンプの基本的な働きを理解していただき、実際に回路を組み立てていただくことを目的とした実習です。

今回は、分析化学会年会が大阪大学で開かれたすぐあとでもあり、参加者の皆さんが少ないのではないかと心配していましたが、予想をはるかに越えた 23 名の学生の皆さんに加えて、三名の先生方にも御参加をいただき、大変盛況のうちに終わることができました。参加いただきました先生、学生さん、並びに、ご推薦いただいた各大学の先生方に厚く御礼申し上げます。



実習は、オペアンプの回路の説明のあと、サーモパイルセンサーからの出力を用いた放射温度計を実際に組み立てていただき、その校正を行いました。

サーモパイルを用いた非接触温度計回路



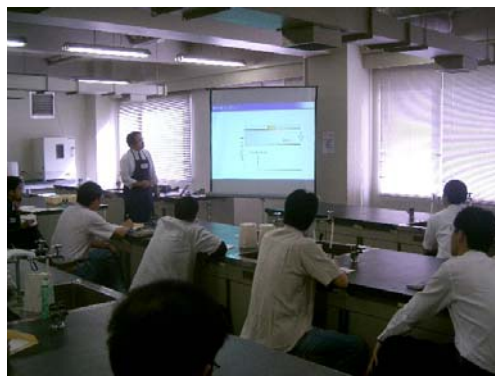
実際に組み立てていただき、その校正を行いました。サーモパイルとは、熱源からステファンボルツマンの法則により放射される波長 8 ミクロンから 12 ミクロンの赤外線を黒体で吸収し、それによる僅かな温度上昇を多くのマイクロ熱電対からなるセンサー（サーモパイル）で検出するというもので、合わせてサーミスタによりセンサー自身の温度を測定し比較することで、対象となる熱源の温度を非接触で測定するものです。左は、製作しました非接触温度計の回路図と、実際に組み立てました電子回路基板の写真を示します。

短い時間にもかかわらず、大変熱心に製作に取り組んでいただき、定刻の 5 時過ぎには、ほぼ皆さん完成されておられました。

実習にご助力いただきました、大阪府立大学の長岡勉先生はじめ、皆さんどうもありがとうございました。
紀本岳志 (紀本電子工業株式会社)

報 告 : 第3回基礎分析化学実習 (10/14) in 京都工繊大

日本分析化学会近畿支部及び、近畿分析技術研究懇親会の主催で去る 10 月 14 日(土)に京都工芸繊維大学内実験室におきまして、「**手作り固相抽出用ポリマーを用いた抽出・分析実験**」と題して実習会が開催された。会当日は秋晴れの下、企業・大学等から 12 名の講習生にご参加いただいた。中には、近畿以外の遠方からお越しくださる方もあって、近畿支部会広報の方の努力と、講習希望者の実験テーマに対する期待や意欲の表れであると感じられた。開催時間は 9:00~17:00 と長丁場にも関わらず、講習生は熱心に聴講や実習を重ねておられた。



講演風景

まず午前の部では開会挨拶に続いて、講師である京都工芸繊維大学所属、細矢憲助教授から「固相抽出媒体としての共連続体ポリマー」についての講演が行われた。講演ではエポキシとアミンの縮合重合反応中に生ずる相分離過程における構造制御に関しての解説と、得られる媒体を固相抽出剤や高速液体クロマトグラフィー(HPLC)の分離媒体であるカラムへの適応性に関しての解説が行われた。実習の指導は細矢助教授と研究室の学生により行われた。実習の説明が行われた後、講習生は二人一組で実際に共連続体ポリマーの調製を行った。実習操作としては、試薬を秤量、かくはんし、加熱によって重合を行う簡単なものである。ポリマーの構造制御が短時間でられる組成であるため、講習生には実際にポリマーが白濁、ゲル化する挙動を観察していただいた。調製の空き時間を利用して、二段階膨潤重合法による、多孔質ポリマー粒子の調製法に関する講習と、実習の見学が行われた。実習始めは、講習生、指導員共に若干ぎこちない感じではあったが、時間が経つうちに和気あいあいとしてスムーズに実習が行われた。



共連続体ポリマーの調製風景

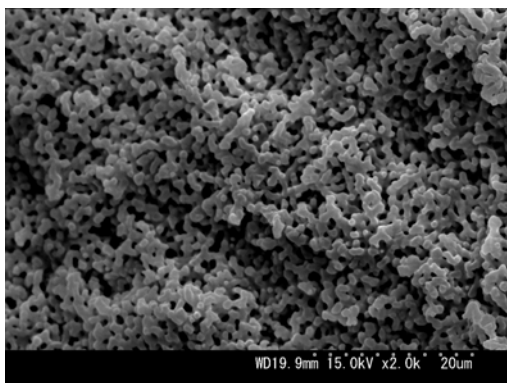
午後からは三班に分かれ、午前中に調製したポリマーの電子顕微鏡観察、多孔質ポリマー粒子を固相抽出剤として用いた色素吸着実験、HPLC を用いた色素吸着・脱着の定量実験を三部構成のローテーションにより行われた。

得られたポリマーは電顕観察により、共連続体構造であることが判明した。電顕観察は基礎分析実習と本質的にはあわないかもしれないが、実際に自ら調製したものの構造を観察することは意義があると思われる。また、電顕観察の装置や測定を始めて見たという講習生もいたため、普段使わない装置

に触れるという、経験的な面でも満足していただいたと思われる。

色素吸着実験ではオープンシリンジに自らフリットとポリマー粒子を充てんし、複数の色素(青色 1 号, 黄色 202 号, 赤色(フロキシシン B))を固相粒子が有する疎水性やイオン交換の機能により分けるという実習であった。実際に目で見て分かる実験であるため、説得力があり、単純な面白さも含み大変好評であった。

HPLCによる色素吸着の定量実験では青色1号10ppmをサンプルとして、絶対検量線法により定量評価を行った。ポリマー粒子の抽出分析では、吸着で99%、アセトンによる脱着で91%という回収率が得られた。午前中に調製した共連続体ポリマーを用いての吸着・脱着実験では、ポリマーの重合時間を短時間にしてしまったために、溶媒に対する膨潤耐性が弱くなり、通液製が悪く、満足な結果が得られなかった。この点においては、よりよい実験プログラムへの改善が必要であると考えられる。



共連続体ポリマーの電顕写真

最後に、一日の実習における高評が行われ、続いて質疑応答が行われた。共連続体ポリマーの構造制御に関する疑問や、HPLCの固定相への応用に対して等の質問が行われ、講習生

は最後まで意欲的であった。

本実習会の最後に講習生に対して行ったアンケートでは、全体の満足度の項目で12名中10名が「大変満足している」、残り2名が「満足している」に回答されており、かなりの反響が得られた。この結果に満足することなく、反省点や改善点を次に生かし、今後とも参加者がより多くの知識や経験、あふれるアイデアが得られるような基礎実習会を目指していきたいと考える。

最後になりましたが、実習に対する準備や多大なるご助言、ご協力をいただきました、大阪府立大学の長岡教授と近畿支部事務局の才寺様に、心より厚く御礼申し上げます。京工織大院 西川



色素吸着分析実験

報告：提案公募型事業(セミナー) (10/19) in 大市大

— 3次元蛍光X線分析に関する研究会—

標記のセミナーを10月19日(木)に大阪市立大学学術情報総合センターにおいて開催された。参加者は24名であった。

セミナーの趣旨： Los Alamos National Laboratory の Havrilla 博士とベルギーアントワープ大学の Janssens 先生の来日に合わせて、微小部蛍光X線分析に関するセミナーを計画した。蛍光X線分析の研究においては、微小部分析から、2次元分析、3次元分析への研究動向が変化しつつある。この状況を踏まえ、この分野の応用、発展性、および、問題点について議論することを目的として本セミナーを企画した。

講演者と講演題目：

1. George J. Havrilla (Los Alamos National Laboratory, USA), "Confocal micro X-ray fluorescence 3D elemental imaging for materials characterization"
2. Koen Janssens (University of Antwerp, Belgium), "Confocal micro-XRF and micro-XAS at the synchrotron and in the laboratory"
3. 辻幸一、中野和彦、堤本薫、松田晃典、米原翼、川又誠也 (大阪市立大学), "Micro XRF studies at Osaka City University"

セミナーの経過報告： Los Alamos National Laboratory の Havrilla 博士からは実験室での微小部蛍光 X 線分析、ポリキャピラリー X 線レンズの特性などについて講義をしていただいた。レンズの性能、および、その評価方法について参加者からの質問が相次ぎ、レンズ特性や問題点が明らかとなった。また、散乱強度を 3 次元モニターすることによる試料の密度評価方法についても紹介された。ベルギーアントワープ大学の Koen Janssens 教授からは実験室とシンクロトロン放射光を用いた微小部蛍光 X 線分析について講義をしていただいた。特に、マイクロラマン分光と微小部蛍光 X 線分析を同軸に組み合わせた装置について紹介があり、組成分析と状態分析が同時可能であることを利用して、文化財資料などへの応用が示された。午前中の講演会終了後、懇親会を兼ねた昼食会を行い、その後、企画立案者の研究室の装置見学を行いながら、さらに議論を深めることができた。 辻 幸一 (大阪市立大学)

報 告 : 第 2 回支部講演会 (12/7) in 大阪科技セ

2006 年 12 月 7 日、大阪科学技術センターにて第 2 回支部講演会が開催された。今回は「**企業における薬品分析**」がテーマである。製薬企業における薬品分析は、リード探索時における大規模処理が必要な分析、さらには開発された医薬認可過程での法規制に関わるシビアな分析など、多岐に渡る分析が駆使されている。今回は、医薬品開発現場に直接携わっている下記 2 名の講師にご講演を御願いした。

1. 製薬企業における分析化学
(塩野義製薬(株) 新薬研究所) 上野恭嗣
2. アルキルアミン付加イオンを利用した LC-MS/MS 定量分析の高感度化
(武田薬品工業(株) 医薬研究本部 開発研究センター) 手島浩一郎

上野恭嗣氏からは、液体クロマトグラフィーやキャピラリー電気泳動を駆使した分離分析的な切り口のご研究にはじまり、表面プラズモンや NMR を用いた相互作用解析など、多岐にわたる分析が紹介された。我々が研究発表等で多用する「ハイスループット」、「前処理」という言葉の持つ真の意味、そして「レギュレーションに耐える分析」の重要性を再認識させられるご講演であった。

手島浩一郎氏からは LC-MS 分析における高感度化手法として、アルキルアミン類を用いる手法の詳細が紹介された。LC-MS 分析における信頼性向上のための系統的な実験データがクリアーに紹介され、質疑応答では高感度化のメカニズムに関する多くの質問があり、活発な議論がなされた。

支部講演会担当 久本

お知らせ

第 68 回分析化学討論会

第 68 回分析化学討論会を来たる 2007 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)に宇都宮大学峰キャンパスにおいて開催します。オンラインによる講演申込 2006 年 12 月 13 日(水)~2007 年 1 月 24 日(水) (予定) 年会・討論会では初めて託児所を開設する予定のようです。詳しくはHP、<http://www.ab11.yamanashi.ac.jp/jsackanto/68touron/index.html> にて。

第5回常任幹事会、第3回幹事会議事録

<http://www.bunkin.org/giji-roku.html> をご覧下さい。なお、第6回新旧常任幹事会は、1月11日(木)に開催されました。



あとがき：ぶんきんニュースは、支部会員の皆様のご協力のもと作成されています。本年もご助力下さいますよう、どうぞよろしくお願い致します。ぶんきんニュースでは皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。広く意見交換の場としてもご活用いただけますので、ご投稿お待ちしております。(T.S)